

## ◆ミニ研究会・合同企画 2009★町田＋玉川学園(活動記録)◆

### 企 画■「町田の中心市街地と郊外住宅地を歩こう！」

(街 cian＋都市と住宅を考える会＋teku-teku による合同企画)

日 時■2009年4月4日(日) 11時～17時半頃

コース■町田駅＋駅前再開発～中心商店街<昼食>～市民文学館ことばらんど～芹が谷公園＋国際版画美術館  
～玉川学園住宅地(戸建住宅地、生産緑地、都営住宅、児童館、高齢者施設、桜並木など)

参加者■◎高見澤邦郎＋双川華子、板橋壽美子、大竹 亮、大谷昌夫、河原佳明、栗原 徹、呉祐一郎、  
佐藤晶子、竹内睦男、古里 実、坊上南海子、増崎耐介、水谷晴子、日曜日の会＋玉川学園まちづ  
くりの会の皆様ほか(合計20名、敬称略、◎コーディネーター)

企画主旨■4月4日に町田研究会を開催いたします。テーマは、高見澤先生のご案内で、町田の中心市街地と郊外住宅地を歩こう！です。古い商業地にオーバーレイされた4つの法定再開発など、中心市街地を見学。町田駅から、ことばらんど(文学館)、国際版画美術館、古い団地、生産緑地等を経て、玉川学園地域へ歩く(3～4km)。1929年4月1日に駅開設、80年と4日を経た玉川学園住宅地を見学という予定です。ちょうど町田は桜まつりの真っ最中とのことです。お忙しい時期とは思いますが、ぜひ参加してください。



町田中心市街地で高見澤先生の解説を聞く



玉川学園で地元まちづくり活動について議論

### <実施レポート>

昨年9月の三茶・太子堂・下北研究会に続き、街 cian(高見澤研究室OB)、考える会、teku-tekuの共同企画第三弾として、町田のまちづくりについて、4月4日に研究会を行いました。

#### 1◆町田駅前再開発＋中心商店街

まずは、前回同様、高いところからこれから歩くエリアを一望ということで、小田急デパートの屋上から町田駅一帯を確認し、まちあるきがスタートしました。

もともとの町田駅は、JRと小田急の駅が離れており、駅と駅の最短距離の道を取り継ぎの人々が走って通っていたことから、その道は「マラソン通り」と呼ばれていたそうです。その後再開発により、JRの駅が小田急側に近づき、今の町田駅周辺の形が整いました。現在でも以前の駅のあったところには改札があり、周辺の商店街の方々の影響力の強さが感じられます。ただ、賑わいについては、現在、駅周辺の方に持って行かれてしまっている様子です。



小田急線と横浜線の駅を結ぶ町田駅前再開発



乾物屋さんも並ぶ中心商店街(かつての絹の道)

駅周辺はデパートあり、チェーン店あり、昔からの書店あり、個性的な店も多数ありで、幅広い年齢層でかなり賑わっていますが、なかでも、同じ通りに乾物屋さんが三軒、現役ばりばり商売繁盛といった様子で並んでいたのが印象的でした。町田では、みなさん丁寧に汁を出して料理を作るような暮らしをされているのかもしれない。

## 2◆中心市街地から郊外住宅地へ

午後からは町田駅の周辺から高見澤先生お住まいの玉川学園までの道のりを歩いて移動しました。途中、桜が満開の版画美術館や南町田農協のシャンプレンハウスなどを見ながら歩き、そして、戸建てや低層アパート、中層の団地などが続くなか、突如として現れる大規模マンション（企業グラウンド跡地に570戸）にどこの地域にもある課題がここにも現れていると感じました。



芹が谷公園内の町田市国際版画美術館



南町田農協のシャンプレンハウス

## 3◆玉川学園住宅地

玉川学園地域では、町田市在住の建築家・都市計画家からなる「日曜日の会」や「玉川学園まちづくりの会」の方々が、まちづくりの中で積極的に役割を果たされています。集会所でそれらの活動内容や玉川学園地域の説明をしていただき、地域を案内していただきました。

ちなみに、玉川学園地域が学園と共に開発された当初、お金持ちは一口500坪、貧乏人は一口250坪（！）なんて感じで分譲されたそうですが、現在の感覚と比べるとなんと豊かな計画でしょうか。現在もその規模のままのお宅もいくつか見ることができます。また、高見澤先生はじめ地域の方々が関わりながら整備された、都営住宅、児童館、高齢者施設がある一帯は、古くからの桜を残しながらデザイン的にも統一感のある計画となっており、地域の方々が目指す街の姿が実現された事例だと感じました。



緑ゆたかな環境を保つ玉川学園住宅地



春爛漫を実感させる満開の桜並木

お忙しい中、町田を案内して下さったみなさま、参加して頂いたみなさま、ありがとうございました。

（双川華子）

※このレポートは、TMU都市と住宅を考える会会報134号より転載し、写真を追加したものです。



## <参加しての所感>

### 1 ●町田のまち全体の印象（今回歩いた範囲で）

駅周辺の再開発と商店街の賑わい、美しい玉川学園住宅地の成熟、個性的でユニークな文化施設、それに満開の桜など、歩いたところはすばらしいものが多かった。高く評価したい。しかしながら、町田のまちの全体像となると、どうも焦点を結ばない。丘陵と平地が交錯するかなり広い特殊な郊外住宅地だからであろうか。町田という都市の本質は奥が深く、私の中でまだ消化しきれない部分があるようだ。

### 2 ●町田駅再開発+駅周辺商店街について

とても賑わっていた。最近よくある超高層建築+広い空地という開発ではなく、中層建築+狭い商店街という構成なので、密度感が高く、道路が街を分断せず、都市性を保っている。大規模店舗と小さなお店、昔ながらの老舗とモダンなショップ、地元のこだわり商店と流行の全国チェーン、表通りと裏路地、それに老若男女が行き交い、多様性と迷宮性のあるラビリンスの街になっている。再開発と駅の改造を複数案提示し、市民の議論を経て進めた方式も先駆的ですばらしい。巧みな都市計画で、周到に仕組まれた街とも言えよう。

### 3 ●町田市民文学館+国際版画美術館について

それぞれのテーマ性がユニークで、立地も商店街や公園の一角にあってなじんでいる。ふだんから、もう少し利用されればいいのだが。（昼食が長引いてあまりよく見ていません。すみません・・・）

### 4 ●玉川学園住宅地について

品のある落ち着いた住宅地に成熟している。ところどころに残る開発当時の面影が貴重で、桜並木も美しい。大造成をして頑丈な擁壁を築きまっすぐな道路を貫くような現在の宅地開発では、こうした趣きは出せないであろう。コスト削減も含めて、自然共生型住宅地の先駆的モデルではないか。維持管理状態も良く、高いコミュニティ意識や熱心な市民活動の様子が伺え、住まい手の愛着が伝わってきた。

### 5 ●特に印象に残った場所

駅前の大通りの一本裏の道★狭い商店街だが、徐々にセットバックし、そのスペースがオープンテラスなどに使われ、いい雰囲気になりつつある。

仲見世の洋食屋★ランチを食べたお店。小さいけれど、とても居心地が良く、安くておいしい良心的なお店。常連客が多いというのもわかる。

商店街の老舗★乾物屋さん、米屋さんなど、昔ながらの商店がいまも賑わっているのが心強い。商店街の性格が、一方的にグローバル化するのを食い止めている。

玉川学園住宅地の桜並木★起伏のある街の曲がりくねった道、土手の上の宅地、そして年季の入った桜並木が風情ある街並みを構成している。

### 6 ●町田のまちづくりの今後について

基本的な性格は東京郊外の住宅都市であるが、その中心に非常に賑わう商店街と極めて質の高い住宅地を有している。しかもそれらは、都市計画の標準的（画一的）な手法の成果ではないところが示唆的である。まちづくりは、行政にとっての基準によるではなく、市民にとっての成果をもとに考え、一つ一つ専門家が知恵を出して手づくりでやっていくことが大切であることを、町田の事例は教えてくれる。これからも、市民、行政、それに専門家が一緒になって頑張ってもらいたい。

### 7 ●今回の企画について

なかなかまとめて歩く機会のない町田の諸相を歩いて実感でき、また、資料も解説もコース設定も適切で、いろいろなまちづくりの仕掛けを理解できました。さらには、専門家が市民の立場でまちづくりに関わるという日曜の会の先駆的活動ぶりも、かいま見ることができました。春爛漫のお花見も兼ねて、非常に密度濃い一日でした！

高見澤先生、日曜の会の皆様、幹事の双川さん、どうもありがとうございました。（大竹 亮）

芹が谷公園の国際版画美術館前にて

